

茶病虫害防除情報

【第 22 号】

令和 5 年 6 月 30 日

鹿児島経済連・肥料農薬課

茶園を傷める 第 2 世代のクワシロカイガラムシ防除対策

今年の梅雨は概ね平年並みに 5 月 31 日に発表されました。現在梅雨の最盛期に入っていますが、比較的晴天日が多いようです。二番茶摘採は各産地ともほぼ終わり、三番茶摘採も始まりますが、蒸暑い気候の中ご苦労様です。今回は、茶園を傷める第 2 世代クワシロカイガラムシの防除対策についてお知らせします。

☆ 発生概況・・・発生時期 早い 発生量 並

今年のクワシロカイガラムシ第 1 世代幼虫の発生は、発生時期は昨年および平年より早かったです。発生圃場率が 13% (平年 28%)、雄繭寄生株率 8.3% (平年 12.4%) で低く、被害茶園は殆どみられない状況でした。第 2 世代幼虫の発生は、県病虫害防除所の病虫害発生予察情報では発生時期が「早い」、発生量は「やや少」の予報になっています。先週本会で行った南薩地域などごく一部地域調査では、早場地域ではふ化始め頃で、その他の地域では概ね産卵時期になっていました。平均気温などを利用した防除適期予測では今年二番茶期の気温がやや低かったため第 1 世代ふ化最盛期から概ね 66-68 日後が第 2 世代のふ化最盛期になります。この世代の発生は、梅雨が明け、晴天が続くと定着が多くなり、発生、被害は増加することがあります。このため防除適期となるふ化最盛期は、極早い地域が 6 月 6~7 月 1 半旬、早場地域 7 月 1~2 半旬、中間地域 7 月 2~4 半旬、遅場地域 7 月 3~5 半旬頃と予想されます。

☆ 防除対策

防除適期は幼虫ふ化最盛期から約 5 日後頃迄です。これより早すぎて産卵の時期や、遅れて幼虫が吐質の介殻で覆われるようになると効果はありません。防除の前に幼虫のふ化状況を調べ、防除適期を確認して防除します。(写真参照) 防除時期が三番茶摘採期と重なり、防除が難しいと思われませんが、この世代の発生は加害時期に晴天・乾燥が続くため、茶園は枯死や衰弱が激しくなるので、発生が多い園では摘採終了後速やかに防除を行います。また、今年も二番茶後浅刈り、深刈り更新園が多いですが、更新園では防除効果が上がり、芽の生育の遅れから再生芽(三番茶芽)生育初期頃に防除ができますので発生のみられる園は是非防除してください。防除は、枝幹にむらなく薬液がかかるように 1000L/10a 散布します。

表 1 クワシロカイガラムシの第 2 世代時期における薬剤防除法

防除時期	防除薬剤	使用濃度 (倍)	薬剤使用基準	使用上の留意事項
第 2 世代幼虫	ダースハン乳剤 40	1000	14 日 2 回	アプロートエースプロアブルは第 1 世代
ふ化最盛期	アプロートエースプロアブル	1000	14 日 2 回	に使用していない場合に使用。
(6 月下~7 月)	ハーベストオイル	100~150	5~9 月 —	中切り、深刈りなど更新後。

※ 耕種的防除法

畑かん地区での散水防除法は、産卵末期頃から幼虫ふ化定着期まで約2週間、日中のみ間断散水（10分散水、20分無散水）します。



散水防除法で死滅したクワシロカイガラムシ卵塊（宮崎茶業支場提供）

産地別のクワシロカイガラムシ防除適期（ふ化最盛期～5日）の目安

極早場産地（枕崎市鹿籠・大塚 志布志市志布志 志布志市原田 鹿屋市高須・浜田など）

6月5～7月1半旬

早場産地（枕崎市中原・茅野 南九州市知覧南部 南九州市穎娃中南部 志布志有明野神 鹿屋市東原 錦江町大根占 南さつま市金峰など）

7月1～2半旬

早場・中間産地（南九州市知覧中部 穎娃谷場・瀬谷・北部 南さつま市東山 志布志市有明風八重など）

7月2～3半旬

中間産地（南九州市知覧中北部 川辺 南さつま市東山 日置市伊集院 東市来 鹿児島市松元 志布志市伊崎田 曾於市大隅・末吉 錦江町田代 出水市）

7月3～4半旬

中間・遅場産地（薩摩川内市入来・樋脇 さつま町 霧島市溝辺 曾於市財部 南九州市知覧後岳 南九州市川辺清水 南さつま市鐵山 など）

7月3～5半旬

遅場産地（霧島市牧園 湧水町栗野 伊佐など）

7月4～5半旬

☆ 防除適期は同じ産地でもほ場によって異なることがあります。このためこの情報は大まかな目安とし、正確な防除適期はJAの茶営農指導員や地域振興局などに調べてもらいましょう。

クシロカイガラムシ 寄生状況・産卵ふ化状況・定着状況



クシロカイガラムシ雌成虫寄生状況



産卵 幼虫ふ化状況

卵の7-8割がふ化した時期(ふ化最盛期)



定着期・・・薬剤防除はこの時期まで



綿状の物質で覆われてくると防除効果が低くなる